

1.	①	11.	②	21.	②	31.	④	41.	①
2.	④	12.	③	22.	②	32.	②	42.	③
3.	③	13.	③	23.	②	33.	③	43.	④
4.	①	14.	④	24.	①	34.	③	44.	②
5.	③	15.	③	25.	③	35.	④	45.	②
6.	②	16.	③	26.	③	36.	②	46.	①
7.	②	17.	②	27.	④	37.	②	47.	③
8.	③	18.	④	28.	③	38.	④	48.	①
9.	①	19.	④	29.	②	39.	①	49.	①
10.	①	20.	④	30.	②	40.	①	50.	①

1.

解答 ①

【解説】

正解は①「1度、1回、かつて」です。`once`は副詞として複数の意味を持ちます。一つは「1度、1回」という回数を表す意味です。`I've been to Hawaii only once.`（私はハワイに一度だけ行ったことがあります）。もう一つは「かつて、昔」という過去のある時点を指す意味で、物語の冒頭などで`Once upon a time ...`（むかしむかし…）という形で使われるのが有名です。②「2度」は`twice`、③「ついに」は`finally`や`at last`、④「しばしば」は`often`が適切な単語です。

◆補足：`once a month`（月に1回）のように、期間を表す言葉と組み合わせて頻度を表すこともできます。また、接続詞として「いったん～すると、一度～すれば」という意味で使われることもあります。`Once you start, you can't stop.`（いったん始めたら、やめられないよ）。

2.

解答 ④

【解説】

正解は④の`realize`で、「～をはっきりと理解する、悟る」という意味の動詞です。それまで気づかなかった事実にハッと気づいたり、物事の重要性などを実感したりする、心や頭の中での認識の変化を表します。`I didn't realize how important it was.`（私はそれがどれほど重要か気づいていなかった）のように使います。他の選択肢は、①`recognize`が「～だとわかる、見分ける」、②`remember`が「～を覚えている」、③`recommend`が「～を推薦する」という意味です。

◆補足：`realize`と`notice`（気づく）の使い分けもポイントです。`notice`が目や耳など五感で情報に「気づく」のに対し、`realize`は主に頭の中で考えて「悟る、理解する」というニュアンスです。名詞形は`realization`（認識、実現）。イギリス英語では`realise`と綴ることもあります。

3.

解答 ③

【解説】

正解は③の`make it`です。これは文脈によって様々な意味を持つ非常に便利な口語表現です。主な意味は、①（約束の場所・時間に）「間に合う、たどり着く」、②（困難な状況を乗り越えて）「うまくやる、成功する」、③（会合などに）「出席する、参加する」などです。`The party starts at 7. Do you think you can make it?`（パーティーは7時開始だよ。来られそう？）。他の選択肢は、①`take it`が「それを受け入れる」、②`get it`が「それを理解する」、④`do it`が「それをする」といった意味が中心です。

◆補足：`make it`は肯定文でも否定文でもよく使われます。`I'm afraid I can't make it on time.`（申し訳ありませんが、時間には間に合いそうにありません）。このように、文脈に応じて柔軟に意味を解釈する必要がある表現です。

4.

解答 ①

【解説】

正解は①「申し込み、応用、アプリ」です。`application`は複数の重要な意味を持つ名詞です。一つは、大学や仕事などへの「申し込み、申請」です。二つ目は、知識や技術などを実際に用いる「応用、適用」です。そして三つ目は、コンピュータやスマートフォンで使う「アプリケーションソフト（アプリ）」のことです。`The deadline for the application is next Friday.`（その申し込みの締め切りは来週の金曜日だ）。②「説明」は`explanation`、③「発表」は`presentation`、④「約束」は`promise`です。

◆補足：`application`の動詞形は`apply`です。`apply for ~`で「～に申し込む」、`apply to ~`で「～に当てはまる、適用される」という形で使われます。`This rule doesn't apply to everyone.`（この規則は全員に当てはまるわけではない）。`an application form`で「申込用紙」となります。

5.

解答 ③

【解説】

正解は③の「～と仲良くやる」です。`get along with A`は、「A（人）と仲が良い、Aと良い関係を築いている」という意味を表す、非常に大切な熟語です。日常の人間関係について話すときに頻繁に使われます。誰かと喧嘩することなく、お互いに気持ちよく付き合っている状態を指します。他の選択肢を見てみましょう。①の「～を追いかける」は`chase`、②の「～と一緒に歩く」は`walk with`、④の「～を我慢する」は`put up with`や`endure`といった単語や熟語が使われ、`get along with`の

直接の意味ではありません。特に②は "go along with" (～と一緒にいく) と形が似ているので混同しないように注意が必要です。

◆補足：この表現は、学校や職場など、新しい環境での人間関係について話すときによく使われます。否定文で "I don't get along with him." と言うと、「彼とはうまく合わない、そりが合わない」という、はっきりとした意味になります。例文: "Do you get along with your new boss?" (新しい上司とはうまくやっていますか?)

6.

解答 ②

【解説】

正解は②「水準、レベル、階」です。名詞の`level`は、能力や品質などの「水準、程度」、海面などの「高さ」、建物の「階」など、非常に広い意味で使われる単語です。`The difficulty level of this game is adjustable.` (このゲームの難易度は調整可能だ)。`The meeting room is on the third level.` (会議室は3階にあります)。①「段階」は`stage`、③「等級」は`grade`、④「点数」は`score`などが使われます。

◆補足：`level`は形容詞として「平らな、同じ高さの」という意味も持ちます。`Make sure the surface is level before you put the table on it.` (テーブルを置く前に、その表面が平らかどうか確かめてください)。動詞としては「～を平らにする」という意味になります。

7.

解答 ②

【解説】

正解は②の『tradition』です。この単語は、特定の集団や社会、家族の中で、世代から世代へと受け継がれてきた信念、慣習、行動様式などを指します。「伝統」や「しきたり」と訳され、お正月のおせち料理や、お盆に帰省することなどが日本の例として挙げられます。他の選択肢も確認しましょう。①の『habit』は、主に個人的な「癖」や「(無意識に行う) 習慣」を指します。朝にジョギングをする、などですね。③の『culture』は「文化」という、より広範で抽象的な概念を指します。伝統は文化の一部と言えます。④の『rule』は「規則」や「ルール」のことで、守るべきことが明確に定められており、破ると罰則があるようなものを指します。それぞれの単語が指す範囲やニュアンスの違いを理解することが重要です。

◆補足：『tradition』の形容詞形は『traditional』で、「伝統的な」という意味です。例えば、「伝統的な日本の食事」は "a traditional Japanese meal" のように表現できます。例文: "It's a family tradition to go camping every summer." (毎夏にキャンプに行くのが、私たちの家族の伝統です。)

8.

解答 ③

【解説】

正解は③「～に入る」です。動詞の`enter`は、部屋や建物などの物理的な空間に「入る」ことを表します。また、大学に「入学する」、競技やコンテストに「参加登録する」、コンピュータにデータを「入力する」など、より抽象的な意味でも使われます。重要な文法上の注意点として、`enter`は目的語を直接とる他動詞なので、通常`into`などの前置詞は不要です。`enter the room`が正しく、`enter into the room`は間違いです。①「～を去る」は`leave`、②「～に到着する」は`arrive at/in`、④「～を横切る」は`cross`です。

◆補足：名詞形は`entrance`（入り口、入場、入学）です。`Where is the main entrance?`（正面玄関はどこですか？）。コンピュータの「エンターキー」は、命令をコンピュータに「入力する」ことからこの名前がついていますね。

9.

解答 ①

【解説】

正解は①「結果、成果」です。名詞の`result`は、ある行為や出来事から生じた結末や成果を指します。試験や試合の結果、実験の結果、会議の結果など、非常に幅広い文脈で使われる基本的な単語です。`The final result was better than we expected.`（最終結果は私たちが期待していたよりも良かった）。②「原因」は`cause`、③「理由」は`reason`、④「報告」は`report`が適切な単語です。`cause and effect`（原因と結果）はよく対で使われる表現なので、合わせて覚えておきましょう。

◆補足：動詞としても使われ、`result in`で「～という結果になる」、`result from`で「～から生じる」という形で使われます。`The heavy rain resulted in a flood.`（その大雨は洪水という結果になった）。`as a result`（結果として）という副詞句も重要です。

10.

解答 ①

【解説】

正解は①の`be unable to do`で、「～することができない」という意味です。能力がない、あるいは状況的に不可能であることを表します。`can't do`や`be not able to do`の、よりフォーマルな言い方として使われます。`I am unable to answer your question at this time.`（現時点ではあなたのご質問にお答えすることができません）。他の選択肢は、②`be about to do`が「まさに～しようとしている」、③`be eager to do`が「しきりに～したがっている」、④`be likely to do`が「～しそうである」という意味です。

◆補足：`unable`は`able`（できる）に否定の接頭辞`un-`がついた形容詞です。助動詞`can`が使えない場面、例えば未来形の`will be unable to ...`（～できないだろう）や完了形の`have been unable to ...`（～ずっとできていない）の形で特に役立ちます。

11.

解答 ②

【解説】

正解は②の`educate`で、「～を教育する、～に教える」という意味の動詞です。学校などで体系的に知識や技能を教えることや、人々の意識を高めるための情報を提供することを指します。`The goal of the program is to educate people about healthy eating.`（そのプログラムの目標は、人々に健康的な食生活について教えることだ）。他の選択肢は、①`elect`が「～を選挙で選ぶ」、③`elaborate`が「～を詳しく説明する」、④`evaluate`が「～を評価する」という意味です。

◆補足：名詞形は`education`（教育）、形容詞形は`educational`（教育的な）です。`He is a strong believer in the power of education.`（彼は教育の力を強く信じている）。

12.

解答 ③

【解説】

正解は③の`island`で、「島」を意味します。完全に水に囲まれた陸地のことです。`I would like to live on a small island in the future.`（将来は小さな島に住んでみたい）。他の選択肢は、①`iceland`が国名の「アイスランド」、②`inland`が「内陸（の）」、④`ireland`が国名の「アイルランド」です。つづりや発音が似ている単語は、意味を正確に区別して覚えることが大切です。

◆補足：`island`を覚える上で最も重要なポイントは、`s`の文字を発音しない黙字（サイレントレター）であることです。発音は「アイランド」となります。同じように`s`を発音しない単語には`aisle`（通路）や`debris`（がれき）などがあります。

13.

解答 ③

【解説】

正解は③「～を求める、～を頼む」です。`ask for`～`は、情報、助け、許可、物などを他人に要求することを意味します。`ask`だけだと「質問する」という意味ですが、前置詞`for`が付くことで「要求する」というニュアンスに変わります。`She asked for some advice about her career.`（彼女は自身のキャリアについていくつか助言を求めた）。①「～を尋ねる」は`ask a question`のように`for`なしで使います。②「～の世話ををする」は`look after`～`、④「～を探す」は`look for`～`です。

◆補足：`ask A for B`で「AにBを求める」という形も頻出します。`He asked his boss for a day off.`（彼は上司に休暇を頼んだ）。`ask`と`ask for`の意味の違いは、英語学習の初期でつまづきやすいポイントなので、しっかり区別して覚えましょう。

14.

解答 ④

【解説】

正解は④「標識、看板、合図、兆候」です。名詞の`sign`は、何らかの情報や意図を伝えるための目印となるもの全般を指す、非常に意味の広い単語です。道路の「標識」(`traffic sign`)や店の「看板」、手や体で示す「合図」(`a sign with the hand`)、そして何かが起こる前触れである「兆候」(`a sign of spring`)など、様々な文脈で使われます。①「場面」は`scene`、②「影」は`shadow`、③「光景」は`sight`です。

◆補足：動詞の`sign`は「(書類など)に署名する」という意味です。有名人からもらう「サイン」は`autograph`と言い、`sign`とは区別するので注意が必要です。`Please sign here.`(ここに署名してください)。

15.

解答 ③

【解説】

正解は③の「国際的な」です。『international』は、"inter-"(～の間の、相互の)と"national"(国の)という二つのパーツから成り立っていることを知ると、意味を覚えやすいかもしれません。「国家と国家の間の」というのが元の意味で、そこから「国際的な」や「国家間の」という意味で広く使われます。例えば、"Narita International Airport"(成田国際空港)のように、国と国とを結ぶ施設やイベントによく使われる形容詞です。②の『domestic』(国内の)は、『international』の明確な対義語なので、セットで覚えておくと非常に便利です。①の『public』は「公共の、公の」、④の『personal』は「個人的な、私的な」という意味で、それぞれ異なる概念を表す重要な単語です。

◆補足：『international』に関連する単語として、『nation』(国、国民)、『national』(国の、国民の)、『nationality』(国籍)などがあります。これらの単語を関連付けて覚えることで、語彙のネットワークが広がり、記憶にも定着しやすくなりますよ。例文: "Soccer is a popular international sport." (サッカーは人気のある国際的なスポーツです。)

16.

解答 ③

【解説】

正解は③「欠席して」です。`absent`は形容詞で、学校や職場、会議など、いるべき場所にいない状態を表します。`be absent from ~`の形で「～を欠席している」と表現するのが一般的です。`Why were you absent from the class yesterday?`(なぜ昨日は授業を欠席したのですか?)。①「出席して」は`present`で、`absent`の明確な対義語です。②「現在の」も`present`と書きますが、意味と発音が異なります。④「注意深い」は`attentive`や`careful`です。

◆補足：名詞形は`absence`（欠席、不在）です。`He explained the reason for his absence.`（彼は欠席の理由を説明した）。`absent`と`present`は、学校の出欠確認などでも使われる基本的な単語なので、必ずセットで覚えておきましょう。

17.

解答 ②

【解説】

正解は②「～することになっている」です。`be supposed to do`は、規則、法律、約束、社会的な常識などに基づいて、「本来～するはずだ、～するものだと考えられている」というニュアンスを表します。`The meeting was supposed to start at 10, but it was delayed.`（会議は10時に始まることになっていたが、遅れた）のように、実際にはそうならなかった、という含みで使われることも多いです。①「～することが許されている」は`be allowed to do`、③「～することをいとわない」は`be willing to do`、④「～することを期待されている」は`be expected to do`が適切な表現です。

◆補足：否定形の`be not supposed to do`は「～してはいけないことになっている」という意味の、比較的穏やかな禁止表現としてよく使われます。`You are not supposed to park your car here.`（ここに車を停めてはいけないことになっています）。

18.

解答 ④

【解説】

正解は④「賞、賞品」です。`prize`は、コンテスト、競技、くじなどで、勝者や優れた人に与えられる金品や名誉を指します。`The first prize is a trip to Hawaii.`（一等賞はハワイ旅行です）のように使います。①「価格」は`price`、②「価値」は`value`、③「税金」は`tax`です。つづりが似ている`price`と混同しやすいので注意が必要です。`price`は商品を買うために支払うお金、`prize`は競争に勝って得るものです。

◆補足：ノーベル賞は`the Nobel Prize`として世界的に有名です。コロケーションとしては、`win a prize`（賞を獲得する）、`a cash prize`（賞金）、`a consolation prize`（残念賞）などがあります。`award`も「賞」を意味しますが、より公式で、業績に対して贈られる賞というニュアンスが強いです。

19.

解答 ④

【解説】

正解は④「最初は」です。`at first`は「初めのうちは、最初は」という意味の副詞句で、その後の文で状況や意見が変化したことを示唆する場合によく用いられます。`At first, the job seemed difficult, but`

I soon got used to it.` (最初、その仕事は難しく思えたが、すぐに慣れた)。①「ついに」は`at last`、②「時々」は`at times`、③「少なくとも」は`at least`がそれぞれ適切な表現です。これらはすべて`at`を用いた重要な熟語なので、それぞれの意味を正確に覚えて区別できるようにしておきましょう。

◆補足：`at first`は文頭に置かれることが多いですが、文末に置くことも可能です。類義語の`in the beginning`も「最初は」という意味ですが、`at first`の方がより一般的に使われます。

20.

解答 ④

【解説】

正解は④「永遠に、永久に」です。`forever`は、終わりなく、いつまでも続くことを表す副詞です。`Some people believe that diamonds are forever.` (ダイヤモンドは永遠だと信じている人もいる) のように使います。①「時々」は`sometimes`、②「すぐに」は`soon`や`immediately`、③「ほとんど」は`almost`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`forever`は`for ever`と2語で書かれることもあります (特にイギリス英語)。`It feels like I've been waiting forever.` (永遠に待っているような気分だよ) のように、非常に長い時間であることを強調するために、少し大げさに使われることもよくあります。

21.

解答 ②

【解説】

正解は②の`presentation`で、「発表、プレゼンテーション」や「贈呈」を意味します。人々の前で、スライドなどを使って情報や計画を説明することで、日本語の「プレゼン」とほぼ同じ意味で使われます。`She gave an excellent presentation on the new marketing strategy.` (彼女は新しいマーケティング戦略について素晴らしい発表を行った)。他の選択肢は、①`preparation`が「準備」、③`permission`が「許可」、④`population`が「人口」という意味です。

◆補足：`presentation`は動詞`present` (～を発表する、贈る) の名詞形です。`give a presentation`や`make a presentation`で「プレゼンテーションを行う」という決まった言い方になります。

22.

解答 ②

【解説】

正解は②「人間の、人間的な」です。形容詞の`human`は、動物や神、機械などと区別して、「人間」という種に特有の性質や事柄を指すときに使います。`To err is human, to forgive divine.` (過つは人の常、許すは神の業) ということわざは有名ですね。①「人道的な、思いやりのある」は`humane`

で、`human`とつづりが似ていますが意味が異なります。③「人気のある」は`popular`、④「ユーモアのある」は`humorous`です。

◆補足：`human`は名詞として「人間」(`a human being`の略)という意味でも使われます。`Humans have the ability to think and create.`(人間は考え、創造する能力を持っている)。コロケーションとしては、`human rights` (人権)、`the human body` (人体)、`human nature` (人間性) などがあります。

23.

解答 ②

【解説】

正解は②の`passage`で、主に二つの意味があります。一つは、本やスピーチなどの文章の「一節、一段落」です。長文読解問題で`Read the passage`と指示されるのがこの用法です。もう一つは、建物の中や二つの場所をつなぐ「通路、廊下」です。`a narrow passage` (狭い通路)。他の選択肢は、①`sentence`が「文」、③`paragraph`が「段落」、④`passenger`が「乗客」という意味です。

◆補足：`passage`は動詞`pass` (通り過ぎる) と関連しています。「通り過ぎていく場所」が「通路」、「文章の中で読み進めていく部分」が「一節」とイメージを繋げると覚えやすいでしょう。`the passage of time`で「時の経過」という意味でも使われます。

24.

解答 ①

【解説】

正解は①の「主題、科目」です。『subject』は文脈によって様々な意味を持つ多義語ですが、最も基本的で重要な意味は、会話や文章の「主題、テーマ」や、学校で学ぶ「教科、科目」です。例えば、"What's your favorite subject at school?" (学校で一番好きな科目は何ですか?) という質問は、自己紹介などで非常によく使われる表現です。この二つの意味は必ず押さえておきましょう。②の「目的、目標」は `purpose` や `goal`、③の「理由、原因」は `reason` や `cause`、④の「結果、成果」は `result` や `outcome` といった単語が対応します。意味が近いグループで単語を覚えるのも効果的ですが、まずはそれぞれの単語の最も中心的な意味を正確に掴むことが大切です。

◆補足：『subject』は動詞として使われると「～を服従させる」という全く違う意味になることもあります。また、科学実験などの文脈では「被験者」という意味で使われることもあります。例文: "The main subject of today's meeting is our new project." (今日の会議の主な議題は、私たちの新しいプロジェクトについてです。)

25.

解答 ③

【解説】

正解は③の`check`で、「～を調べる、点検する、確認する」という意味の動詞です。何かが正しいか、安全か、あるいは問題がないかなどを確かめる行為を指します。`Please check your e-mail for a confirmation message.`（確認メッセージが届いていないか、メールをチェックしてください）のように使います。他の選択肢は、①`change`が「～を変える」、②`choose`が「～を選ぶ」、④`chase`が「～を追いかける」という意味です。

◆補足：`check`は名詞として「点検、検査」や「小切手」、「勘定書」（米語）など、多くの意味を持ちます。また、`check in`（搭乗・宿泊手続きをする）、`check out`（会計を済ませて出発する）、`check up`（健康診断）など、`check`を使った句動詞も日常生活で頻繁に使われます。

26.

解答 ③

【解説】

正解は③の`on the whole`で、「概して、全体的に見て」という意味の熟語です。いくつかの小さな問題点や例外はあるかもしれないが、全体としてはこうだ、と結論や評価を述べるときに使われます。`On the whole, it was a successful event.`（概して、それは成功したイベントだった）のように、文頭や文末で使われることが多いです。他の選択肢を見てみましょう。①`as a whole`は「全体として、一体となって」、②`for the whole`は一般的な表現ではなく、④`on a roll`は「勢いに乗って、絶好調で」という口語表現です。

◆補足：`on the whole`は、`in general`（一般的に、概して）や`generally`（一般的に）と似た意味で使えます。細かい部分にこだわらず、大局的な視点から意見を述べるときに便利な表現です。

27.

解答 ④

【解説】

正解は④「反対側の、正反対の」です。形容詞の`opposite`は、位置関係が「向かい側の」であることや、性質、意味、意見などが「正反対の」であることを示します。`We have opposite views on this matter.`（私たちはこの件に関して正反対の見解を持っている）。①「同じ」は`same`、②「似ている」は`similar`、③「隣の」は`next`や`neighboring`が適切な単語です。

◆補足：`opposite`は名詞として「正反対の人（物）」、前置詞として「～の向かいに」という意味でも使われます。`I sat opposite him during the meal.`（食事の間、私は彼の向かいに座った）。`the opposite sex`（異性）という表現もよく使われます。

28.

解答 ③

【解説】

正解は③の`character`で、「性格、特徴」や「(物語の) 登場人物」という二つの主要な意味を持つ名詞です。`She has a very strong character.` (彼女はとても強い性格の持ち主だ)。`He plays the main character in the movie.` (彼はその映画で主演を演じている)。他の選択肢は、①`career`が「経歴、職業」、②`carrier`が「運ぶ人、航空会社」、④`carriage`が「馬車」という意味で、つづりが似ていますが意味は全く異なります。

◆補足：`character`には「文字」という意味もあります。例えば、`Chinese characters`は「漢字」を意味します。人の内面的な性質、物語の人物、そして文字と、多義的な単語ですが、どれも準2級レベルでは重要です。

29.

解答 ②

【解説】

正解は②の`language`で、「言語、ことば」を意味します。人々が意思疎通のために用いる、音声や文字の体系全体を指します。`It is difficult to learn a foreign language.` (外国語を学ぶのは難しい)。他の選択肢は、①`letter`が「文字」や「手紙」、③`message`が「伝言、メッセージ」、④`word`が「単語」を意味します。これらは`language`を構成する要素ではありますが、`language`そのものではありません。

◆補足：コロケーションとしては、`official language` (公用語)、`native language` (母語)、`body language` (身振り言語) などがあります。言語学は`linguistics`、言語学者は`linguist`です。

30.

解答 ②

【解説】

正解は②の`leave ~ alone`で、「～を一人にしておく、干渉しないでおく、そっとしておく」という意味です。人に対して使えばその人を構わないでおくこと、物に対して使えばそれに触らないでおくことを表します。`Please leave me alone. I need to concentrate.` (どうか一人にしてください。集中する必要があるんです) のように使います。他の選択肢は、①`let ~ down`が「～をがっかりさせる」、③`look ~ over`が「～にざっと目を通す」、④`call ~ off`が「～を中止する」という、それぞれ重要な句動詞です。

◆補足：この表現は、`leave`が持つ「～を(ある状態のまま)にしておく」という用法の一例です。`alone`は「一人で、単独で」という意味の形容詞・副詞で、`leave`と組み合わせることで「一人(という状態)にしておく」となります。

31.

解答 ④

【解説】

正解は④の`a few`です。「少数の、いくつかの～」という意味で、数えられる名詞の複数形と共に使います。ポイントは`a`が付くことで、「少ないながらも、いくつかはある」という肯定的なニュアンスになる点です。`I have a few questions to ask you.`（あなたにいくつか質問があります）。他の選択肢は、①`a little`～が数えられない名詞について「少量の～」と肯定的な意味を表します。一方、`a`がない②`few`～と③`little`～は、「ほとんど～ない」という否定的な意味を表します。

◆補足：`a few`と`few`の違いは非常に重要です。`I have a few friends.`（友達が数人いる）は肯定的な文ですが、`I have few friends.`は「友達がほとんどいない」という孤独で寂しい状況を表します。この`a`の有無による意味の違いは、テストで頻繁に問われるポイントです。

32.

解答 ②

【解説】

正解は②「シェフ、料理長」です。`chef`は、レストランなどの厨房で責任者として働く、専門的な訓練を受けた料理人を指します。単に料理をする人全般を指す`cook`とは区別され、`chef`の方がより高い地位と専門性を持つニュアンスがあります。`The restaurant is famous for its creative chef.`（そのレストランは創造的なシェフで有名だ）。①「料理人」は`cook`、③「店員」は`clerk`や`staff`、④「主人」は`master`や`owner`が適切な単語です。

◆補足：`chef`はフランス語に由来し、もともとは`chief`（長）と同じ語源です。「厨房の長」という意味合いが含まれています。`head chef`（料理長）や`pastry chef`（パティシエ、製菓長）のように、他の単語と組み合わせて使われることもあります。

33.

解答 ③

【解説】

正解は③の`be about to do`で、「まさに～しようとしている、～するところだ」という意味です。動作が始まる寸前の、ごく近い未来を表します。`I was about to leave home when the phone rang.`（電話が鳴った時、私はまさに家を出ようとしていたところだった）のように、何か別の出来事が起こったことでその動作が中断される、という文脈でよく使われます。他の選択肢は、①`be going to do`が一般的な未来、②`be able to do`が能力、④`be willing to do`が意志を表し、「直前」のニュアンスはありません。

◆補足：この表現は、`just`を加えて`be just about to do`とすることで、「本当に今にも」という切迫した感じをさらに強調することができます。`Hurry up! The train is just about to leave.`（急いで！電車がまさに出発するところだよ）。

34.

解答 ③

【解説】

正解は③の「博物館、美術館」です。『museum』は、美術品、歴史的な資料、科学的な標本など、文化的・学術的に価値のあるものを収集・保管し、一般の人々に展示するための施設全般を指します。日本語では、展示されているものの種類によって「博物館」「美術館」「科学館」「資料館」などと訳し分けられますが、英語ではこれらを広く『museum』で表すことができます。他の選択肢も、公共施設を表す重要な単語です。①の『library』は、本や資料を閲覧したり貸し出したりする「図書館」です。②の『theater』は、演劇や映画を鑑賞する「劇場」や「映画館」を指します。④の『aquarium』は、水中の生き物を展示する「水族館」です。これらの違いをしっかりと区別して覚えましょう。

◆補足：美術品を主に展示する場所は特に『art museum』や『art gallery』と言います。歴史に関するものなら『history museum』、科学に関するものなら『science museum』と具体的に言うことも多いです。例文: "We went to the National Science Museum during summer vacation." (私たちは夏休みに国立科学博物館に行きました。)

35.

解答 ④

【解説】

正解は④「～より少ない、～未満」です。`less than ～`は、数や量が基準となる数値に達していないことを示す比較の表現です。`The delivery will take less than a week.` (配達には1週間もかからないでしょう) のように使います。①「～より多い」は`more than ～`で、`less than ～`の明確な反対表現です。②「～とちょうど同じ」は`exactly the same as ～`、③「～にもかかわらず」は`in spite of ～`などが適切な表現です。

◆補足：`less`は、`little` (少量の) の比較級で、原則として数えられない名詞 (例: time, money, water) の量を比較する際に使います。一方、数えられる名詞 (例: people, books, mistakes) の場合は`fewer than ～` (～より数が少ない) を使うのが文法的には正しいとされています。`There were fewer than ten students in the classroom.` (教室には10人未満の生徒しかいなかった)。

36.

解答 ②

【解説】

正解は②の`however`で、「しかしながら、けれども」という意味の接続副詞です。前に述べた内容とは対照的なことや、逆説的なことを導入する際に使われます。`The hotel is expensive. However, the service is excellent.` (そのホテルは値段が高い。しかしながら、サービスは素晴らしい)。他の選択肢は、①`therefore`が「それゆえに」(因果関係)、③`moreover`が「その上、さらに」(追加)、

④`otherwise`が「さもなければ」(条件)と、それぞれ文と文を異なる関係でつなぐ重要な接続副詞です。

◆補足: `however`と`but`は似ていますが、`but`が接続詞として文の途中で使われるのに対し、`however`は副詞なので文頭や文中に置かれます。`However,`で始めることで、前の文との対比をより明確に示すことができ、フォーマルな文章で好まれます。

37.

解答 ②

【解説】

正解は②の『recommend』です。この単語は、自分が実際に体験したり見たりして「良い」と思ったもの(例えば、レストラン、本、映画など)や人物を、他の人にも「推薦する、勧める」という時に使います。自分のポジティブな評価が背景にあるのがポイントです。他の選択肢も重要な単語です。①の『promise』は、「～を約束する」という意味です。未来の行動を固く誓うことですね。③の『advise』は、「～に助言する、アドバイスする」という意味で、相手のために専門的な知識や経験から意見を述べるニュアンスがあります。『recommend』より少し客観的で公式な響きがあります。④の『demand』は、「～を強く要求する」という意味で、非常に強い言葉です。これらの意味の違いをしっかりと区別できるようになりましょう。

◆補足: 『recommend』の名詞形は『recommendation』(推薦)です。例文: "Can you recommend a good book for learning English?" (英語を学ぶのによい本を推薦してくれますか?) このように、何かを勧める時、あるいは人にお勧めを尋ねるときに、日常会話で非常によく使う便利な単語です。

38.

解答 ④

【解説】

正解は④の`twice`で、「2度、2回」または「2倍」という意味を持つ副詞です。回数を表す場合は`I have to take this medicine twice a day.`(私はこの薬を1日に2回飲まなければならない)のように使います。「2倍」の意味では`twice as ... as ~` (～の2倍...) や`twice the size of ~` (～の2倍の大きさ)といった形で使われることが多いです。他の選択肢は、①`two`が基数の「2」、②`second`が序数の「2番目」、③`double`が「2倍の」という形容詞です。

◆補足: 回数を表す言葉は、`once` (1回)、`twice` (2回) が特別な形で、3回以上は`three times`、`four times`のように`数字 + times`で表現します。この基本ルールは必ず覚えておきましょう。

39.

解答 ①

【解説】

正解は①「所属している、所有物である」です。動詞の`belong`は、通常`belong to ~`の形で使われ、「~に所属している、~の一員である」ことや、「~のものである」という所有関係を表します。`He belongs to the art club.`（彼は美術部に所属している）。`Does this pen belong to you?`（このペンはあなたのものですか?）。②「~を信じる」は`believe`、③「~を借りる」は`borrow`、④「~を持ってくる」は`bring`が適切な単語です。

◆補足：`belong`は所有や所属という「状態」を表す動詞なので、原則として進行形（-ing形）では使いません。また、名詞形の`belongings`は、常に複数形で「所持品、持ち物」を意味する重要な単語です。`Don't forget your personal belongings.`（私物をお忘れなく）。

40.

解答 ①

【解説】

正解は①の`along with ~`で、「~と一緒に、~に加えて」という意味の前置詞句です。`with`とほぼ同じ意味で使えますが、何かが主なものに付け加わる、というニュアンスをより強調することがあります。`Please submit your resume along with a cover letter.`（カバーレターと一緒に履歴書を提出してください）。他の選択肢は、②`instead of ~`が「~の代わりに」、③`in spite of ~`が「~にもかかわらず」、④`according to ~`が「~によると」という意味です。

◆補足：`along with`は`together with`（~と共に）と意味が非常に近いです。どちらも、複数の人や物が一緒にあること、または行動を共にすることを示します。`I went on a trip along with my family.`（私は家族と一緒に旅行に行った）。

41.

解答 ①

【解説】

正解は①「~を促進する、昇進させる」です。動詞の`promote`には、主に二つの意味があります。一つは、販売や健康、平和などを「促進する、奨励する」という意味です。`This campaign aims to promote recycling.`（このキャンペーンはリサイクルを促進することを目的としている）。もう一つは、会社などで人をより高い地位に「昇進させる」という意味です。`He was promoted to sales manager.`（彼は営業部長に昇進した）。②「~を約束する」は`promise`、③「~を準備する」は`prepare`、④「~を提案する」は`propose`です。

◆補足：名詞形は`promotion`で、「販売促進、プロモーション」や「昇進」を意味します。`She is hoping for a promotion.`（彼女は昇進を望んでいる）。

42.

解答 ③

【解説】

正解は③の`prove`で、「～を証明する、～だとわかる」という意味の動詞です。証拠や論理を用いて、何かが真実であることを示す行為を表します。`The experiment proved his theory to be correct.`（その実験は彼の理論が正しいことを証明した）のように使います。他の選択-肢を見てみましょう。

①`provide`は「～を供給する、提供する」、②`protect`は「～を保護する」、④`propose`は「～を提案する」という意味です。

◆補足：`prove`の名詞形は`proof`（証拠）です。`There is no proof that he committed the crime.`（彼がその罪を犯したという証拠はない）。また、`prove to be`の形で「（結果的に）～だとわかる、判明する」という意味でもよく使われます。`The new method proved to be very effective.`（その新しい方法は非常に効果的だとわかった）。

43.

解答 ④

【解説】

正解は④「～について議論する、話し合う」です。`discuss`は、ある特定のテーマについて、様々な角度から意見や情報を交換することを意味する動詞です。`We need to discuss this problem in the meeting.`（私たちは会議でこの問題について議論する必要があります）。重要な注意点として、`discuss`は目的語を直接とる他動詞なので、後ろに`about`は不要です。`discuss about the problem`はよくある間違いなので気をつけましょう。①「～を決定する」は`decide`、②「～を発表する」は`announce`、③「～に反対する」は`oppose`です。

◆補足：名詞形は`discussion`（議論、話し合い）です。`have a discussion about`～という形では`about`が必要になります。`Let's have a discussion about it.`（それについて話し合いましょう）。動詞の`discuss`と名詞の`discussion`の使い方の違いをしっかりと理解しておくことが大切です。

44.

解答 ②

【解説】

正解は②「～に追いつく」です。`catch up with`～は、先行している人や物に追いつくことや、勉強や仕事などの遅れを取り戻すことを意味する句動詞です。`If you run, you can catch up with them.`（走れば、彼らに追いつけるよ）。`I was sick last week, so I have to catch up with my studies.`（先週病気だったので、勉強の遅れを取り戻さなければならない）。①「～と仲良くやる」は`get along with`～、③「～を我慢する」は`put up with`～、④「～を思いつく」は`come up with`～が適切な表現です。

◆補足：友人としばらく会っていなかった後で「近況を話し合う」という意味でも`catch up`はよく使われます。`Let's meet for lunch and catch up.`（ランチでもして近況を報告し合おうよ）。

45.

解答 ②

【解説】

正解は②の`afraid`で、「恐れて、怖がって」や「心配して」という意味の形容詞です。`be afraid of`の形で「～が怖い」、`be afraid that`節の形で「～ではないかと心配だ」という使い方をします。

`Many people are afraid of making mistakes.`（多くの人が間違いを犯すことを恐れる）。他の選択肢は、①`angry`が「怒って」、③`anxious`が「心配して、切望して」、④`alone`が「一人で」という意味です。`anxious`も「心配して」の意味を持ちますが、`afraid`の方がより「恐怖」のニュアンスが強いです。

◆補足：`I'm afraid ...`という表現は、「恐れ入りますが…、残念ですが…」と、相手に言いにくいことや悪い知らせを丁寧に切り出すためのクッション言葉として非常によく使われます。`I'm afraid I have to disagree with you.`（恐縮ですが、あなたには同意しかねます）。この丁寧な断り方は、円滑なコミュニケーションのために必須の表現です。

46.

解答 ①

【解説】

正解は①の`sightseeing`で、「観光、名所見物」を意味します。`sight`（光景、名所）を`seeing`（見ること）するという、単語の成り立ちからも意味が分かりやすいですね。`We spent the whole day sightseeing in Rome.`（私たちはローマで一日中観光をして過ごした）のように使います。他の選択肢は、②`traveling`が「旅行すること」、③`tripping`が「つまづくこと、旅行」、④`viewing`が「見ること、観覧」を意味します。観光という特定の目的を持つ活動は`sightseeing`が最も適切です。

◆補足：「観光に行く」は`go sightseeing`という決まった言い方をします。`I'd like to go sightseeing around the city.`（街を観光して回りたいです）。「観光客」は`tourist`、「観光バス」は`a sightseeing bus`、「観光名所」は`a tourist attraction`や`a historic site`などと表現します。

47.

解答 ③

【解説】

正解は③「女性、雌」です。`female`は、前の問題の`male`の対義語で、名詞として「女性、雌」、形容詞として「女性の、雌の」という意味を持ちます。人間だけでなく、動物や植物の雌（めす）を指す場合にも使われます。`The research focused on female elephants.`（その研究は雌のゾウに焦点を当てていた）。①「妖精」は`fairy`、②「炎」は`flame`、④「運命」は`fate`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：一般的な会話では`woman`や`girl`が使われるのに対し、`female`はより科学的、公式な文脈で性別を区別する際に使われることが多いです。コロケーションとしては、`a female employee`（女性従業員）や`the female reproductive system`（女性の生殖器系）などがあります。

48.

解答 ①

【解説】

正解は①「卒業」です。`graduation`は、学校の所定の課程をすべて終えることを意味する名詞です。`After graduation, I plan to study abroad.`（卒業後は、留学する計画です）のように使います。②「入学」は`entrance`や`admission`、③「休暇」は`vacation`や`holiday`、④「学期」は`semester`や`term`がそれぞれ適切な単語です。学校生活に関連するこれらの単語は、まとめて覚えておくと良いでしょう。

◆補足：`graduation`の動詞形は`graduate`です。`graduate from ~`の形で「～を卒業する」という意味になります。`My brother will graduate from high school next spring.`（兄は来年の春に高校を卒業します）。`a graduation ceremony`（卒業式）や`a graduation gift`（卒業祝い）といったコロケーションも一般的です。

49.

解答 ①

【解説】

正解は①の「専門用語」です。『term』は、意味がたくさんある多義語として知られていますが、英検準2級レベルでは、まず二つの重要な意味を覚えておくことが大切です。一つは「学期」です。日本の多くの学校は3学期制（three terms）ですね。そしてもう一つが、この問題の正解である「（専門）用語」です。例えば、"medical term"は「医療用語」、"technical term"は「技術用語」を意味します。文脈によってどちらの意味で使われているかを判断する必要があります。②の「簡単な単語」は`easy word`、③の「一般的な意見」は`general opinion`、④の「行事」は`event`となり、いずれも『term』の主要な意味ではありません。多義語は覚えるのが大変ですが、まずは中心となる意味から一つずつ攻略していきましょう。

◆補足：「期間」という意味で"a long-term plan"（長期計画）のように使われたり、「（契約などの）条件」という意味で使われたりすることもあります。このように、文脈に応じて意味を判断する必要がある単語なので、辞書で例文をたくさん確認するのが良い学習法です。

50.

解答 ①

【解説】

正解は①の「家にいるように感じる」です。『feel at home』は、文字通り「家で感じる」ということから、「（他の場所にいても）自分の家にいるようにリラックスする、くつろぐ、気楽に感じる」という意味で使われる表現です。物理的に家にいることなく、心理的な快適さを表すのがポイントです。

②の「家に帰りたいと感じる」('want to go home')は、むしろその場所に居心地の悪さを感じている状態であり、正反対の気持ちです。③や④も、この熟語が持つ「安心感」や「快適さ」のニュアンスとは異なります。言葉の表面的な意味だけでなく、その裏にある感情や状況を想像することが、熟語をマスターするコツですよ。

◆補足：人の家を訪れた客に対して使う決まり文句に "Make yourself at home." があります。これは「どうぞ、ご自分の家のようにくつろいでくださいね」という、おもてなしの心を示すためのとても温かい言葉です。もし誰かに言われたら、"Thank you, I will."（ありがとう、そうさせてもらうね）などと返事をするとい良いでしょう。
